

# 1班 グアムの文化と歴史 (泉・酒井・徳永・劉)



**発表内容**  
 I グアムの概要  
 (市民講座で学んだこと)  
 II 訪れた場所  
 ・ラッテストーン公園  
 ・スペイン広場  
 ・太平洋戦争記念館  
 ・ガアンポイント  
 III まとめ

**I グアムの概要**  
 I-1 基本情報

アメリカ合衆国準州グアム  
 首都：ハガニア  
 面積：544㎢  
 人口：約17万人  
 気候：温暖 (平均気温27℃)  
 公用語：英語・チャモロ語



**I グアムの概要**  
 I-2 グアムの歴史

出典：[グアム政府観光局/グアムの歴史](#)

紀元前500年頃 東南アジアからインドマラヤ系の民族が渡来。同じ文化と言語を話す人々が定着していく  
 1521年3月6日 世界一周の航海を行っていたマゼランがグアム島を発見し、グアム島をIs las de los Ladrones (泥棒諸島) と名付けた  
 1668年 スペイン・チャモロ戦争  
 1695年 チャモロ人が降伏  
 1898年 北西戦争  
 1941年 日本統治下時代 グアム島を「大宮島」と呼ぶ  
 1944年 アメリカ軍上陸  
 1950年 アメリカの自治領 (準州) となる  
 1967年 日本から初めての観光客 (109名) が訪れた



**II 訪れた場所**

- 1.ラッテストーン公園/スペイン広場
- 2.太平洋戦争記念館
- 3.ガアンポイント

**II 訪れた場所**

**II-1 グアムの多様な歴史と文化**

・先住民時代、スペイン、アメリカ、日本による植民地時代  
 ⇨多様な歴史と文化

先住民  
(チャモロ人)



先住民  
チャモロ人



ラッテストーン

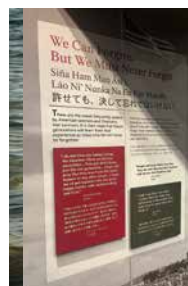


スペイン広場・チョコレートハウス

**II-2 太平洋戦争記念館**

“許せても決して忘れない”

このような歴史を繰り返さないように歴史として残していくことが相手国を憎み続けることよりも大切であると感じた

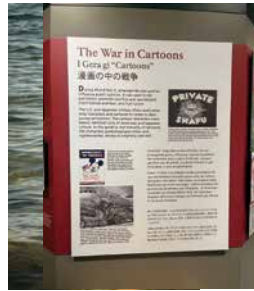


II-2 太平洋戦争記念館

人々の思想を操作するためのプロパガンダ

映画やポスターなどを主に使った

愛国主義や犠牲と徴兵を促すだけでなく、憎しみ、恐怖、人種差別を植え付ける効果があった

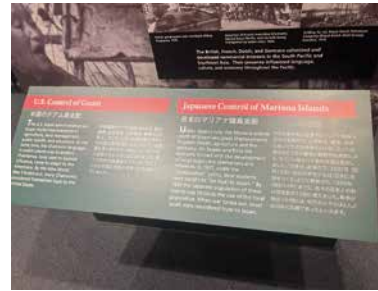


II-2 太平洋戦争記念館

グアム島→アメリカ統治下  
産業の発展;  
生活様式の変化

マリアナ諸島→日本統治下  
産業の発展;  
生活様式の変化

“統治”の二面性



II-2 太平洋戦争記念館

米国のグアム支配

The U.S. Naval administration on Guam made improvements in agriculture, land management, public health, and education. At the same time, the Chamorro language in public places was forbidden.

Chamorros, long used to Spanish influence, **came to adapt to the Americans**. By the time World War II broke out, many Chamorros considered **themselves** loyal to the United States.

米国海軍のグアム島統治により、島の農業、土地管理、公衆衛生、教育などが向上しました。一方、公共の場でのチャモロ語の使用は禁じられ、スペインの影響を長く受けたチャモロ人は、アメリカの習慣に合わせるようになりました。第二次世界大戦開始までに、チャモロ人たちは米国に忠誠心を持つようになっていました。

II-2 太平洋戦争記念館

日本のマリアナ諸島支配

Under Japan's rule, the Mariana Islands north of Guam saw great improvements in public health, agriculture and the economy. On Saipan and Rota the economy thrived with the development of large sugarcane plantations and refineries. In 1937, under the 'Japanization' policy, **local students were taught to "be loyal to Japan"**. By 1939 the Japanese population of these islands was 10 times the size of the local population. When war broke out, most locals were considered loyal to Japan.

グアム島の北に位置するマリアナ諸島は日本の支配の下、公衆衛生、農業、経済において大きな発展を遂げました。大規模なさとうきび農場と製糖所の発展により、サイパン島とロタ島の経済は繁栄しました。「日本化」政策の下、1937年（昭和12年）、地元の学生たちは「日本に忠誠をつくす」ように教育され、1939年（昭和14年）までに、島々の日本人の数は現地民の10倍に増えました。戦争が始まった時には、地元の人々のほとんどは日本に忠誠であったといえます。

II-2 太平洋戦争記念館

・記述の表現のされ方の違い  
アメリカ統治下のグアム

→came to adapt to the Americans

日本統治下のマリアナ諸島

→local students were taught to "be loyal to Japan"

・歴史認識の“ズレ”

II-2

太平洋戦争記念館

・戦争を体験した個人の記録→戦争はそこに生きる人々の生活を全く違ったものに変えてしまうということがわかる

数字だけではわからない戦争のリアリティを伝える媒体として重要



I-3 ガンポイント (Ga'an Point)

1944年7月21日に開始された米軍上陸地点の一つ



日本軍の高射砲や湾岸砲、防御用射撃陣地（トーチカ）が残される



## 1班 グアムの文化と歴史

防御用射撃陣地（トーチカ）



### Ⅲ まとめ

- ✓先住民時代～スペイン、アメリカ、日本時代における様々な歴史・文化が現存
- ✓戦争の現場に足を運ぶことで、当時の出来事に立ち会った人々の感情や経験を肌で感じ、今享受している平和の重みを深く感じた
- ✓数字ではわからない個人の体験を記憶することが重要
- ✓多文化理解にはそれぞれの歴史や文化、置かれている立場を考えなければならない
- ✓平和の実現のためには、過去の歴史から学び、今そして未来に活かしていくことが必要

## 2班 サイパンの歴史・文化（栗城・富田・西崎・星野）



### ラストコマンドポストとは

サイパン島北部に位置するマツヒ山の崖下にある戦跡地で、日本軍最後の司令部があったといわれる場所。「バナデロ」とも呼ばれる。



1944年6月15日にサイパン島の南の海岸に米軍が上陸。1か月足らずでサイパン島全土を占領。その間、日本軍や民間人はサイパン島北部へと追いやられる。

多くの民間人や日本兵が自決したバンサイクリフやスーサイドクリフも目と鼻の先。

### 中部太平洋戦没者の碑

サイパン島で亡くなった戦没者を慰霊するため1974年に日本政府によって建立された。使用された石材は全て日本から運ばれたもの。石碑は遺骨箱をかたどっており、台座の下には遺骨が納められている。

石碑の裏には個人や慰霊団体によって慰霊碑が数多く建てられている。日本人会や関係者の手によって慰霊碑は定期的に清掃されている。



### 現代に伝わる「観光資源」

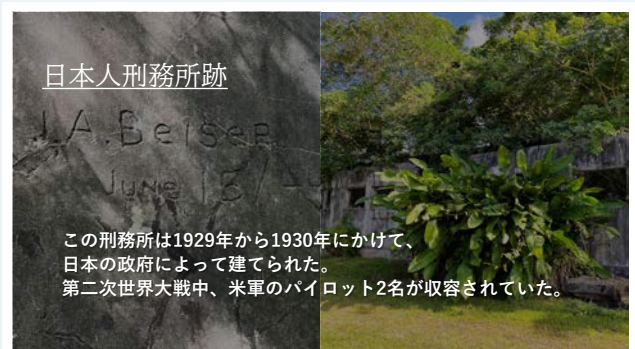
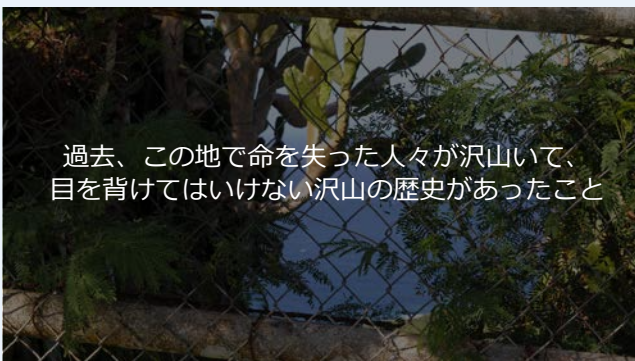
トーチカの下は広場になっており、サイパン島全土から集められた旧日本軍の武器が集められている。



現在まで残る戦車や高射砲、砲台、魚雷は風化による損傷が激しいが、当時の戦況を知る重要な資源として保存されている。



## 2班 サイパンの歴史・文化



### 展示品



日本統治時代のサイパン島に関する説明



日本軍によるサイパン島防備に関する説明



サイパン島、テニアン島における日本軍の守備配置、米軍のサイパン島への侵攻の様子が模型で説明されている。



米軍によるサイパン島への上陸の様子



サイパン島内での戦闘の様子



当時の米軍爆撃機の装備品



米軍の攻撃の巻き添えによって亡くなった現地人(チャモロ人とカロリニアン人)への追悼の言葉

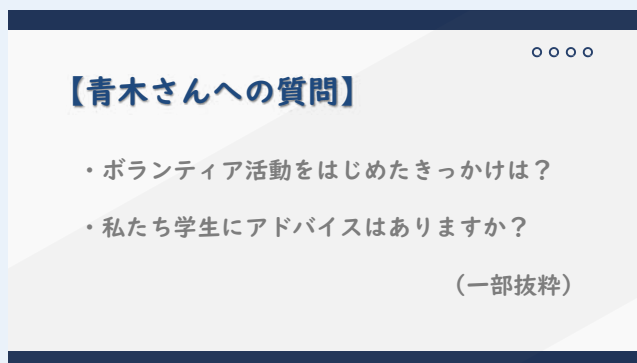
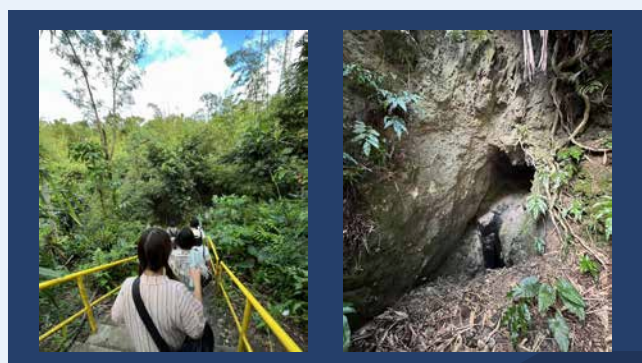
サイパン島で戦死した日本軍兵士の詠んだ詩。建物の窓ガラスに展示されている。



青い海、  
青い空、  
そこには平和の色以外何もない、  
地球をつつみこむ青一色、  
世界は1つだと教えているのだ。

詠み人知らず  
サイパン島で戦死した日本兵の詩

### 3班 現地の方との交流 (田中・寺澤・中島・宮崎)





現地の方による  
戦争体験講話

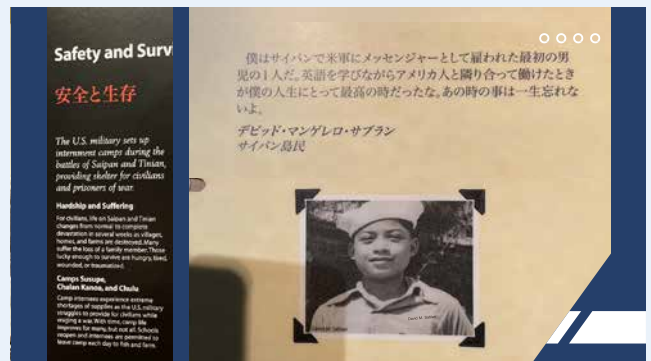
Day2 in Saipan:

戦争経験者

デビッド サブラン氏



講話のようす



【派遣を通して学んだこと】

- ・客観的な視点を持つことの重要性
- ・戦争へのアプローチは多様であること
- ・自国の歴史を積極的に学んでいく意識



グアム大学  
異文化交流

Day3 in Guam:

UOG Students volunteer  
Clerさん 珠蘭さん



### 3班 現地の方との交流

広大な敷地



広大な敷地



ディスカッション





# 戦争を忘れてはいけないのは何のためなのか

劉佳帆さん(大学生)

「戦争を忘れてはいけない」という言葉は広く共有されていますが、ここでいう戦争は過去しか指していません。この訓告の趣旨は、戦争がもたらす惨禍を忘れず二度と繰り返してはならないというものでしょうが、果たしてそれは実践されているのでしょうか。

第二次世界大戦以後、日本は戦争当事国にこそなつてはいませんが、今日のグローバル社会において「世界のどこか」で起こっている戦争紛争と無関係でいられる国家は一つとしてありません。歴史や文化を学ぶことは、「戦争を見ないふり・知らないふり」をしないために何よりも重要なことです。

私自身、「戦争を忘れてはいけない」のは何のためなのか、そして今起こっている戦争に対してどう行動すればよいのかを考える主体でありたいと思っています。そして、拙文を目に留めてくださった方々もそうあってほしいと願っています。

## 人が二人生きることで、誰かを何かを

## 変える力が生まれる

宮崎ひな子さん(大学生)



戦争中、生きたくても生きられない人がいます。平和な社会で命を絶とうとする人がいます。この差はどこから生まれるのでしょうか。私たちは人生に苦しみの中で、誰もが各々の「戦場」で戦っているのかも知れません。

人が一人生きることで、誰かを何かを変える力が生まれることを私は伝えたいです。自分は価値があり、生きていいと気づいてもらいたいと思います。また相手の立場に立つ勇氣も大切です。なぜ意見が合わず対立が起こるのか、自分目線だけでなく、相手目線に立つてみてほしいと思います。相手は違うヒントをくれるかもしれません。

日本人として世界に羽ばたく前に覚えていてほしいことがあります。単なる暗記科目だった歴史、記された一文字はたくさんさんの犠牲と勇氣、悲しみのもとで生まれ、今の私たちに学びを与えてくれたのだと。

# 平和への想い

国際交流体験ツアー報告

## 若い世代が未来へ語り継ぐ

昨年12月11日～16日、公募で選ばれた区内在住・在学者が、戦争で激戦地となったグアム・サイパンで海外事情調査を行いました。戦争の記憶をたどった参加者のうち広報班4名の想いをご紹介します。

## 今ある平和は決して当たり前ではない

寺澤太星さん(高校生)

今伝えたいことは主に二つです。一つ目は、グアムの方もサイパンの方も日本のことが好きだということ。第二次世界大戦中、現地の人々は戦禍に巻き込まれたにも関わらず、グアムは「私たちは忘れない。でも許す。」という大きな決断をし、話し合いによって解決しました。サイパンでも戦争の経験者が「日本が大好きです」と語っていました。



二つ目は、戦争は本当に恐ろしいということ。私も含めて、多くの方は戦争がどのようなものかあまり知らないでしょう。しかし、現地で見た防空壕や多くの人が身を投げたバンサイクリフでは胸が苦しくなりました。戦争は罪のない人々を一瞬にして帰らぬ人にしてしまう。今ある平和が当たり前ではないことを皆さんに考えてほしいと思います。

## 過去から学び、異なる文化や歴史を尊重する

酒井ひなたさん(社会人)



今回グアム・サイパンで起きた戦争の歴史を深く学び、日本で生まれ、生きていく日本人として、当時の日本によるグアム・サイパンの領土占領、サイパン委任統治による先住民への日本式教育、先住民を戦争に巻き込んで犠牲を出してしまったことなどに対して、申し訳なきや後ろめたな気持ちを持ちました。しかし、現地で当時の人たちの言葉を知り、今を生きている人の話を聞き、単に過去の歴史を振り返ってその場で反省するだけでは不十分だと痛感させられました。

私たちが今起きている戦争に目を向けるなら、過去から学び、平和を築く努力をし、異なる文化や歴史を尊重する心を持ち続けることが欠かせないと考えます。未来の世代に戦争の痛みや悲劇を伝え、ともに理解を深めることで、平和な未来への一歩を踏み出すことができるでしょう。

報告会に参加した  
千代田区×区内12大学  
魅力発信プロジェクト令和5年度  
PRサポーターズが  
伝えたいこと

## 戦争を自分事として捉える

私は太平洋戦争の表面的な部分しか知らなかったことを痛感しました。戦争の痕跡があつても、知ろうとする姿勢がなければ、風化してしまうのだろうかということも。そして、悲惨な歴史を心の中に残して生きていく意義を実感。また、一人ひとりが「戦争を自分事として捉えなければならぬ」というメッセージを多くの人に伝えていく必要があることも感じました。私も周囲に伝えることから始めます。



上智大学2年 津田 あやさん

## 言葉適切に使う重要性

平和な未来を築くためには、歴史的背景への理解だけでなく当事者の視点を理解することが不可欠であるということ、そして聞き伝える側が正しく伝えることの重要性について、考えさせられました。相手の視点を理解するのにも、そして学んだことを伝えるのにも、言葉は必要不可欠です。ならばそれを正しく用いることが、平和な未来を築くための第一歩になるのではないかと、私は考えます。



二松学舎大学2年 藤川 綾さん

グアム

令和5年度  
国際交流体験ツアー  
12名の参加者  
(現地学生とともに)



写真上段左から順に、葉城実菜さん、西崎瑞穂さん、中島悠希さん、寺澤大星さん、由中翔太郎さん、宮崎ひな子さん、徳永栄子さん、林珠蘭さん(グアム大学生)。写真下段左から順に、Leo Wangさん(通訳者)、星野祐二郎さん、劉佳帆さん、雷田茉莉さん、酒井ひなたさん、泉恵来里さん、Clarisse Tarromaさん(グアム大学生)

# グアム・サイパンを巡る

現地に残る多くの戦争遺跡を目の当たりにし、お住まいの方から当時の様子を聞くなど、平和の大切さを自分事として捉えることができました。



グアム平和慰霊公園にある慰霊塔



グアム平和慰霊公園内に残る日本軍の飲料水槽跡。小川の水を貯水した



グアム平和慰霊公園にある、兵士一人用の塹壕“蛸壺”の跡



アメリカ軍の上陸点となり日米の激戦地となったガアンポイント。旧日本軍の大砲が残る



見学中の体験ツアー参加の皆さん



サイパン

サイパン島のバナデロ(ラストコマンドポスト)は日本軍最後の司令部があった場所。旧日本軍の軽戦車の残骸が残る



追い詰められた日本兵や民間人がアメリカ兵からの説得に応じず身を投じた悲劇の断崖、バンザイクリフ



バナデロ(ラストコマンドポスト)に残る当時の高射砲



サイパンの日本統治時代に造られた日本刑務所跡



1/19  
報告会

○問合せ 国際平和・男女平等人権課国際平和担当(区役所6階) ☎03-5211-4165○

# サイパンでの戦争体験を聞く

サイパン島で生まれ育ったデビッド・サブランさんに、実際の戦争時のことなど、大変貴重なお話を伺いました。

小学校で日本語教育を受けた。姉のオルガンが一家の楽しみ

サイパンは歴史上、複雑な背景を持っています。1900年にドイツ軍が侵入してきて占領し、その後、1914年に日本人の統治下となり、1920年から日本の委任統治領になりました。第二次世界大戦後はアメリカの自治領です。

私は、日本委任統治時代の1932年4月2日、父親のエリアス、母親のカルメンのサブラン一家に、11人きょうだいの6番目として誕生しました。

当時の小学校に5年生まで通い、5年間、日本語の教育を受けました。当時の日課は、毎朝神社の掃除をしてから準備運動で体を慣らし、日本のある北のほうに向かって天皇陛下に最敬礼をすること。でも勉強は午



デビッド・サブランさん  
日本委任統治時代に生まれ、戦争を体験。観光局で局長を務めた。92歳

その憲兵隊は沖繩出身者から、私たちがオルガンでアメリカ軍にメッセージを送っているという情報を手に入れたのです。もちろん、全くの誤報です。それでも憲兵隊は、父と姉、近くにいた他の2人を軍の本部へ連行していきま

前中だけで、午後からは農作業でした。

当時、私たちはサイパンの西部ガラパン市に住んでいました。姉のマリアは、毎週日曜にカトリック教会でオルガンを弾いていました。父はマリアが私たち家族を楽しませることができるようにとオルガンを買い、そして彼女は教会で演奏していた曲の数々を夕食のたびに披露してくれました。姉の演奏に合わせて、家族一緒にサイパンの歌や日本の歌を歌っていました。

## 父と姉がスパイ行為を疑われ、父は日本軍に拘束される

1944年2月のある早朝、日本の憲兵隊たちが来て、家から出て行くように言いました。そして家からオルガンを持ち出し、おのて粉々にしてしまったのです。どれだけ悲しい気持ちになったことでしょうか。

この日は日曜日で、兄のマリアノと私は、食料を分けてもらうため日本軍の戦車大隊の友人を訪ねようとしていました。ちょうど外に出たときに爆弾が炸裂し始め、父は大きな声で私たちを呼び戻しました。米空母の戦闘機は休むことなく爆撃し、日本軍も応戦。日米による絶え間ない砲撃と空中戦が展開されたのです。攻撃から2日目、父は私たちを守るため、洞窟に行くことを決めました。家から北の方角にあるタポチョ山近くに大きな洞窟があるのを思い出したためでした。洞窟までの激しい道のりを進み、ようやくの思いでたどり着くと、ほかの家族連れもやってきて、20名ほどで共同生活をしました。

## 爆撃は唐突に始まり 家族全員で洞窟へ避難した

1944年6月10日、米軍機がサイパンとテニアン(サイパン島の南西にある島)を爆撃し始めたことを今でもはっきりと覚えています。

戦闘は5日間、昼も夜も続いていました。父が洞窟にあった穴から西の方角を眺めると、何十隻ものアメリカ軍の艦船が水平線を埋め尽くしているのが見えたそうです。それから間もなく、アメリカ艦船から多数の小型船が軍隊を乗せてサイパンの浜辺に近づいてくるのを見たのです。1944年6月15日の朝、アメリカ軍の戦艦の大艦隊が西の地平線を覆い尽くし、アメリカ軍のサイパン上陸が始まりました。

私たちがサトウキビ畑でサトウキビを刈って洞窟に持ち帰り、食事にしていました。3週間ほど続いたある朝、日本軍の1団が通り過ぎるのを見かけてサトウキビ畑に身を隠し、軍人たちが去った後に大急ぎで洞窟に戻ってきたことがありました。しかし、その頃には目が昇り始めていたため、沖合の米軍艦船から洞窟近くの丘で人がはつているのが見えて艦砲射撃を始め、私たちの洞窟の入り口付近で爆弾が落ちました。でも家族全員無事で、その後アメリカ軍に保護され、キャンプに収容されました。

## 戦争を起こしてはならない 対話を通じて平和を築く

父はその後、警察官になり、戦後初の民間選挙で市長になりました。父は日本統治下でサイパンが大きく発展したことを経験していたので、日本に対してすごく信頼があったと思います。戦争になったときは日本軍に味方をして国を守ってもらうという意識でした。結局アメリカ軍に保護されましたが、それに対してどう思うこともありませんでした。なぜなら、生きていかなければなりませんから。ただ、それを含めて今思うのは、やはり絶対に戦争を起してはいけないということです。

今もまだ各地で紛争が続いています。しかし、言葉や文化が違っても、対話をするだけで道は開けていくはず。絶対に戦争はよくない。何があっても対話を通じて平和を築いていくことが必要だと考えています。

## 国際平和都市 千代田区宣言

平成7年3月15日、区は世界の恒久平和の実現に向けて積極的に行動することを、区に住み、働き、学ぶすべての人々の決意として「国際平和都市千代田区宣言」を発表しました。

過去の戦争を二度と繰り返さないことを強く誓い、このことを後世に伝えていくこと、そして、今日、もはや自分たちだけの平和と安全を考える時代ではないことを高らかにうたうとともに、世界の人びとと連帯して核兵器をなくし、同じ地球の仲間として友好を深め、互いに理解しあい、世界の恒久平和を実現するために積極的に行動すること宣言しています。

## 平和祈念モニュメント

「国際平和都市千代田区宣言」を永続的に記念し、その精神を広く訴えるため、平成9年3月、区役所本庁舎に設置しました。モニュメントは、公募により制作されました。



○現地での活動内容や学んだことをまとめた報告書を作成しています。報告書は3月下旬から区のHPまたは問合せ先の窓口で閲覧できます(無償配布もあり(数に限りあり))。○

◀ 団員募集チラシ

グアム・サイパン 派遣

## 区民参加の海外事情調査団 参加者募集

千代田区  
主催

8/31(木)17時  
締切

2023年12月11日(月)～16日(土) 5泊6日

写真:「ラストコマンドポスト」のマリアナ政府観光局/MVA

第二次世界大戦の激戦地の一つであるグアム・サイパンを訪問し、戦争や現地の文化に関する施設の見学、現地の人々との交流を行います。戦争の歴史や復興への歩み、未来に向けた取組などを学び、平和・人権など世界が抱える課題について、一緒に考えてみませんか。

**スケジュール(予定)** ※すべての参加が必須です

月日	内容
10月19日(木)	打合せ① オリエンテーション
10月24日(火)	事前研修会① 講座「グアム・サイパンの概要・文化」
11月第2週の平日いずれか	事前研修会② 講座「グアム・サイパンの歴史1」
11月第3週の平日いずれか	事前研修会③ 講座「グアム・サイパンの歴史2」
11月30日(木)	結団式・打合せ②
12月11日(月)～16日(土) 5泊6日	グアム・サイパンを訪問
1月中旬	事後研修会(報告会や報告書作成に向けた打合せ)
1月中旬	報告会

・いずれも時間は18:30～20:00、会場は千代田区役所内の会議室を予定  
・事前研修会の講師は、大学教授や関係政府観光局スタッフ等を予定

■渡航先の治安情勢等により、派遣を中止する場合があります 旅行業務委託:(株)ワールド航空サービス

申込・  
問合せ

千代田区 国際平和・男女平等人権課 国際平和担当  
〒102-8688 千代田区九段南1-2-1 (千代田区役所6階)  
電話: 03-5211-4165 (直通) メール: kokusaidanjo@city.chiyoda.lg.jp

◀ 報告会チラシ

令和5年度

# グアム・サイパン 国際交流体験ツアー 報告会

事前申込制

**日時: 令和6年1月19日(金)**  
18時30分～20時00分

**会場: 千代田区役所4階 401会議室**  
(千代田区九段南1-2-1)

グアム・サイパンを訪問した団員が  
現地で体験し、感じ、学んだことを報告します。

**■問合せ・申込先**  
千代田区 国際平和・男女平等人権課 国際平和担当  
☎03-5211-4165 (直通) ✉kokusaidanjo@city.chiyoda.lg.jp

電話またはメールでお申し込みください。※メールの場合は、下記を記載してください。  
1.グアム・サイパン報告会、2.氏名(ふりがな)、3.住所、4.電話番号、5.年齢、  
6.千代田区との関係(在任・在勤・在学・その他)

# 写真館



作成 星野・徳永・西崎(写真班)



# GUAM

**DECEMBER 11th-13th**







# GUAM

DECEMBER 11th-13th







# Saipan

DECEMBER 14th-16th





僕らが洞窟に隠れたとき食べ物も全然なくみんなが空腹をうったえていた。戦争が始まるちょっと前まで僕は家において、米軍の航空機が聞こえた時ティファレにある洞窟に走って逃げたんだ。そして、そこについたとき僕の家族用の穴を掘り始めたんだ。戦争中はたくさんの方が死んだ。僕の妹のマリアと母が死んでしまった。母は銃弾に撃たれて死んだんだ。米軍に殺されたのか日本軍に殺されたのかもわからない。洞窟の外にもたくさん死体があつて母が死んだことにも気づかなかったんだ。

イエス・リスア  
サイパン島民

午前5時、凄まじい敵の空中攻撃があつた。やつと死ぬ場所に来たのだ。侍のように平静な態度で死ぬことを光榮に思う。海軍の援護射撃は熾烈過ぎて言葉で言い表すこともできない。今、私は一人前の戦士になれたような気がする。夕暮れにかけて爆撃は終わったように思えたが再び夜になって先ほどと同じような爆撃が続いた。午後約5時頃、大隊本部との通信がとれた。

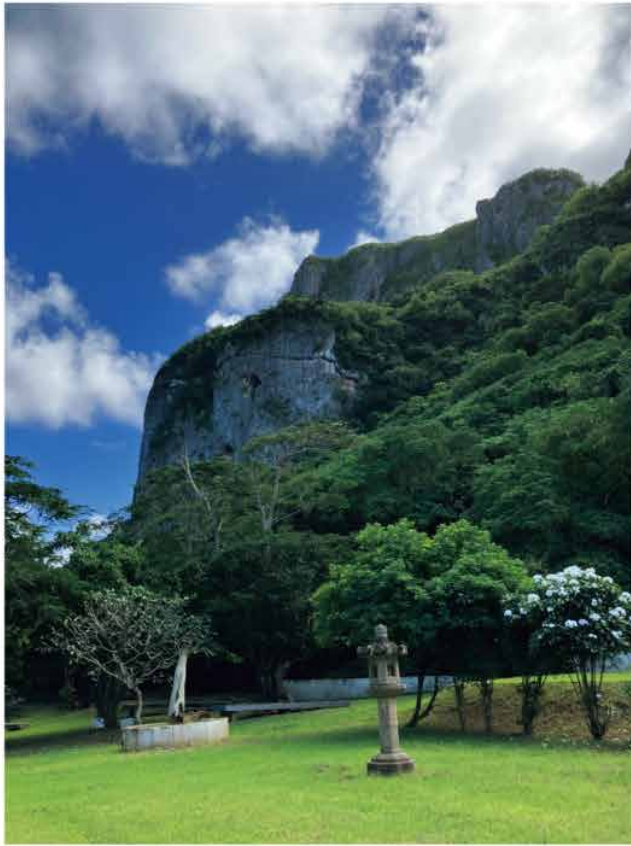
氏名不明の日本兵の日記から





# Saipan

DECEMBER 14th-16th



令和5年度  
グアム・サイパン国際交流体験ツアー 報告書

- ・発行年月：令和6年(2024年)3月
- ・編集集：グアム・サイパン国際交流体験ツアー団員
- ・編集・発行：千代田区地域振興部国際平和・男女平等人権課  
〒102-8688 千代田区九段南1-2-1  
☎03-3264-2111(代表)

# GUAM



# Saipan